

科目名	単位数	学年	必修・選択	備考
数学Ⅰ・A	3+2	1	必修	

1. 科目の概要・学習目標

(1) 数学Ⅰ

①数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。②命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 数学A

①図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。②図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を養う。③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 成績・評価・観点の割合（観点別評価の重みもここで記載）

(1) 知識・技能：思考・判断・表現：主体性＝5：3：2

(2) 評価は「定期考査・確認テスト・提出物・振り返りシート・授業態度」を数値化して行う。

各学期観点別にA・B・Cで評価し、学年末には5段階評価を付ける。※直線履修だが、成績は別々でつける。

3. 使用教科書・副教材

(1) 高等学校 数学Ⅰ（数研出版）、高等学校 数学A（数研出版）

(2) 4プロセス（特進クラス）、書き込み式シリーズ 標準 Study-Up ノート（普通クラス）

4. 授業展開・形態・方法（授業の進め方、受講に当たって臨む態度、少人数・習熟度など）

2クラス3展開の習熟度授業を行う。標準クラスは基礎基本の定着を図る。応用クラスは発展的な内容の演習も行う。間違えや正解の両方の思考を楽しむ気持ちで受講に臨んで欲しい。

5. 学習方法・学習のポイント（自学の進め方、予習・復習の方法など）

スタディーサプリや副読本を活用し、きちんと家庭学習を行うこと。